

依然として景況は最悪の状況であるが、底打感は増大している

5月の情報連絡員報告によると、前年比の景気動向は、製造業・非製造業ともに依然として大幅な悪化傾向を示している。製造業においては景況・売上高・収益状況ともにマイナス80を超えており、いまだ回復の道りは遠いといわざるを得ない。しかしながら今回は売上げの低下が止まったとの報告が、先月に比べてさらに多くの組合からよせられており状況の変化を期待したい。

【製造業64人、非製造業86人、計150人の集計】

各項目のDIの動き（前年同月比）

	全 体	製 造 業	非製造業
売 上 高	😞	😞	😞
在 庫 数 量	😊	😊	😊
販 売 価 格	😞	😞	😞
取 引 条 件	😞	😞	😞
収 益 状 況	😞	😞	😞
資 金 繰 り	😞	😞	😞
設 備 操 業 度	😞	😞	—
雇 用 人 員	😞	😞	😞
業 界 の 景 況	😞	😞	😞

😊 …増加、上昇、好転
 😐 …不変
 😞 …減少、低下、悪化

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
鉄鋼・金属	建築物製造業	住宅リフォームに対する強力な助成措置を講じてほしい。
繊維・同製品	帆布製品製造業	今以上の支援策を講じてほしい。業界の存続が危ぶまれる状況にある。
	ニット製品製造業	多くの商談が生まれる業界のイベント「ジャパン・ベスト・ニット・セレクション」には経済産業省繊維課が強力にバックアップしてくれている。東京都等も地場産業の振興に力を入れていただければありがたい。

平成21年
5月

業 界 の 声

製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	中華麺製造業	5月以降売上が伸びない。得意先の廃業も多い。
	製粉業	政府が検討している輸入麦の政府売渡ルールのSBS化(売買同時契約方式、輸入業者と買受予定者(製粉業者)が連名で、外国産麦の「政府への売渡し」と「政府からの買受け」に関する申込みを同時に行う契約方式)が実施された場合、中小製粉業者には対応が困難であり、多くの事業者が廃業に追い込まれる危険をはらんでいる。
繊維・同製品	ネクタイ製造業	新型インフルエンザ問題の影響で地方百貨店の売上が大幅に落ち込んでいる。そうした影響もありネクタイの売上は前年比75%となっている。
	帽子製造業	連休前半までは天候に恵まれ売上は好調であったものの、その後の天候不順と新型インフルエンザ問題の影響で消費者の外出が減ったことから売上は落ち込んだ。
	帆布製品製造業	5月の売上は過去最低となり、予想の半分にも達しなかった。昨年と比べてもさらに景況が悪化することが懸念され、組合の存続問題に発展することが危惧される。
	洋服製造業	受注が全くない。大手アパレルメーカーも30~40%減産している。事業者は雇用調整助成金を活用してしのいでいる。夏までに倒産・廃業する業者が多発する事態が予想される。
	織物製造業	前月に比べわずかながら状況は改善している。
木材・木製品	建具製造業	前年比の売上高は依然減少しているものの、やや持ち直す兆しが出ている。贈与税減税や住宅ローン借入優遇措置等がどのように形を表すのか期待を込めて見守っている。
印 刷	印 刷 業	組合で実施している売上動向調査によると1~3月期の売上は対前年比90.9%。特に2月は10%以上の落ち込みとなった。4~6月の3ヶ月予測は前年比87.6%とさらに厳しい数字となっている。
化学ゴム	塗料製造業	販売額は2月を底に回復傾向にあるが依然、前年比マイナス20%前後の状況にある。
	プラスチック製品製造業	連休後の状況も思わしくない。仕事量は前年比の70~80%。
	ゴム製品製造業	連休前にユーザーはゴム製品の在庫を確保したため、受注量が激減。但し後半にかけて受注が戻り始めた。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	年度当初より受注量が伸び悩んで業界は危機的状況にある。こうした状況下で業界が秩序を保つことができるのか懸念される。
	生コンクリート製造業	新年度に入っても相変わらず売上状況は低迷している。
鉄鋼・金属	金属熱処理業	前月に比べ若干売上状況が改善している。組合員に差はあるものの、対前年比マイナス40%となっている。しかしながら赤字状況は変わっていない。一部ユーザーからの値下げ交渉が発生していることが懸念材料である。
	鋳物製造業	5月は稼働日数が少ないため生産量も半分程度となった。
	鍍金加工業	一部に動きが見られるが、先行きは依然不透明。依然として雇用調整を続ける厳しい受注環境。事業を廃止する組合員が続出している。
	伸銅品製造業	2~3月期に比べ4~5月期は回復しているものの、前年比では50%マイナス。
	ダイカスト製品製造業	前年比の売上は5割減であるが、前月比では若干増加した。受注減少の底を打ったとする組合員が徐々に現れている。
輸送用機器	自動車部品製造業	売上激減のため、臨時社員の雇用継続打ち切り、給料や役員報酬のカット、臨時休業の削減による経費の節減等、様々な対策を講じてきたが、状況の悪化に追いつけない。政府の講じたセーフティーネット貸付や休業補償対策には救われている。
一般機械	木工機械製造業	景気の底入れの声が聞かれるが、住宅着工件数は下がる一方で建設関連業界は最悪期を脱していない。
	精密工具製造業	売上、収益、資金繰り等、依然厳しい状況が続いている。
	写真製版機材製造業	前年比で売上は減少、収益も悪化している。
その他の製造	スポーツ用品製造業	健康志向を受け、競技用スポーツ用品に比べ、ウォーキングやサイクリングスポーツ等に関する商品の市場が拡大している。
	ガス圧接業	稼働率は依然低迷している。受注単価の下落も止まらず先行きの見通しが見えない。
	精密工具製造業	依然、売上・資金繰り等厳しい状況にある。

平成21年
5月

業 界 の 声

非 製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	化粧品卸売業	5月は休日が多く売上に大きな影響が出た。経済対策は零細店舗に対しては十分ではなく厳しい経営が続いている。
	電線卸売業	4月の建設用電線がマイナス18%となった他、電気機械用電線はマイナス47%となるなど荷動きの悪さを数字が実証している。
	理容用品卸売業	現在組合が企画しているイベントについて、理容室や理容品メーカーと会合を重ね業界全体が共感できるイベントとすべく協議を進めている。その過程で業界間の取引に係る問題点を洗い出し、解決の糸口を探るきっかけになるなど、業種の枠を超えて連携をもったことで副次的な効果も現れている。
	セメント建材卸売業	5月の共同購買実績は前年比50%。5月21日供給分より共同購買事業の一部品目の値下げ実施。
	美容用品卸売業	組合員の取引先である美容店の増加数は昨年度175店舗にのぼる。都内の美容店の増加の勢いはめざましいが、それぞれの店舗の経営は辛うじて維持されている状況にある。
	木材卸売業	メーカーが減産しており製品在庫が減少してきた。
	紙卸売業	仕入価格が値上がりしたため販売価格が上昇したが、売上は大幅に減少。また企業の広告費削減も売上高減少の一因となっている。
	玩具卸売業	プラス要因がなにひとつ見あたらず、茫然自失の状態にある。各社、今を持ちこたえるのが精一杯である。
	食肉卸売業	新型インフルエンザの影響で関西からの入荷が激減しており、品不足となっている。学校給食等への影響が大きい。
	再生資源卸売業	古紙の市況が底をついてきた感がある。鉄・アルミ価格は若干上昇しており安堵している。
	ニット製品卸売業	在庫が減少しつつあり商品によっては品薄傾向がある。業界全体としては依然売上の不振が続く、企業倒産等が懸念される状況が続く。
小 売	食器小売業	新型インフルエンザ問題は外食産業に少なからず影響しており、売上低迷の原因となっている。
	木材小売業	5月の連休明けから需要が減少。各事業所が受ける電話の数すら半減している。
	古書籍小売業	当月も回復の兆しは見えず、景況は依然厳しい。
	豆腐小売業	平成20年度の組合員における廃業者は71人に達した。
	包装材料小売業	段ボール、板紙及び石油化学製品価格が下がり始めた。この値下がりや売上増大につなげることができるか、組合・組合員企業とも正念場となっている。
	電器製品小売業	エコポイント制度の前倒し実施を背景に地域店の状況も好転しつつある。3~4月分を取り戻す勢いで省エネ家電の売上げは好調。省エネ型液晶テレビは3倍、冷蔵庫は2倍の売上。エアコンは低調だが売上げについての底打ち感がある。今後エコポイント制度が確立され消費者に認知された暁には、この3商品の売上増は確実である。太陽光発電システムも地域店舗の据付けスキルの修得が進めば売上の柱の一つとすることができる。
	中古自動車小売業	4月の新車販売の不振が下取車の不足を招き、中古市場は品薄状態が続いている。
	衣料品小売業	アウター衣料を中心に売上実績が前年量に達していない。定額給付金の販促効果も現れていない。
	酒小売業	規制緩和により酒類販売事業者が急増したことにより、一般酒販店の経営が成り立たない。組合の脱退にも歯止めがかからない。
	文具小売業	5月は営業日数が少なく売上高は減少。組合は役員定数の減少も検討するほどに組合員の減少が目立つ。
	青果小売業	消費者の購買意欲が徐々に高まっていることが感じられる。

小 売	タイヤ小売業	売れ筋が安価な商品にシフトしている。
	自転車小売業	定額給付金や自治体が発行している地域商品券の効果で売上は増加していると思われる。
	メガネ小売業	消費者の購買動向は高級品と廉価品への二極化が顕著になっている。売上全体は依然低迷状況が続いている。
商 店 街	目 黒	各種の融資制度が功を奏し、資金が活用され出した。売上については店舗ごとの差が依然として大きい。
	秋葉原	エコポイント制度が導入された5月中旬以降はテレビ・冷蔵庫等の販売が上向く。ただし中旬までは買い控えの影響で1ヶ月間としての売上は大きく伸ばせなかった。
	赤 坂	テナントの入れ替わりが激しく組合員も減少傾向。賃貸料が高いためテナントが永続的に営業できないことが原因と考えられる。
サ ー ビ ス	自動車整備業	ハイブリッド車は高電圧の配線があり、構造も従来の自動車と異なるため整備に負担がかかることが予想される。
	クリーニング業	高い技術を持ちながらも高い料金設定をしている組合員店が落ち込む一方、低料金を売りにしたアウトサイダー店は好調の様子である。品質は二の次となっている状況が歯がゆい。
	複写業	倒産・廃業による組合員の減少が目立つ。
	飲食業	売上が落ち込む中、インフルエンザ問題がさらに客足を遠ざけていると思われる。
	公衆浴場業	業界は利用者増のための各種イベントを実施しているが、利用者増につながらないのが現状である。
運 送 業	貨物自動車運送業	依然荷動きは低迷。燃料価格が上昇傾向にあり収益状況も厳しい。
	港湾運送業	輸出の減少が荷動き数量の減少に繋がっている。